

GLP狭山日高Ⅱ

GLP Sayamahidaka II

No. 09-002-2017作成

新築
工場・物流施設

発注者	グローバル・ロジスティック・ソリューションズ株式会社	カテゴリー				
設計・監理	佐藤工業株式会社一級建築士事務所	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB	
施工	佐藤工業株式会社 東京支店	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

周辺環境に溶け込むサステナブルな物流施設

計画概要

「GLP狭山日高Ⅱ」は、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の「狭山日高IC」より北西へ約3.4kmと至近で、圏央道を通じて東名・中央道・関越道・東北道・常磐道に接続することにより、中部以西及び東北までアクセス可能な好立地を活かした、広範囲な物流オペレーションが可能な、延床面積約8.5万㎡のマルチテナント型物流施設である。プレキャストプレストレスコンクリート、全館LED照明、太陽光パネル設置、森の再生などの環境に配慮、免震構造を採用し安全に配慮した先進的物流施設となっている。

CASBEE評価認証の取得

周辺環境への配慮、省エネ建物とすることで、第三者認定評価機関において、CASBEE認証「Aランク」を取得した。



全景



CASBEE認証票



CASBEE認証書



エントランス



エントランスホール



5階カフェテリア



5階男子トイレ

具体的な取り組み

省エネルギーと自然エネルギーの利用

外壁、屋根に断熱性に優れた材料を採用することにより、外気からの影響を抑え、省エネを図るとともに、LEDを採用し省エネ建築とした。太陽光発電パネルを設置し、自然エネルギーを利用している。

安全で高耐久性ある建物

免震構造を採用し、地震時においても人・建物・荷物の安全を確保し、地震時の躯体損傷を抑えることで、建物の長寿命化とした。また、ランプウエイもプレキャストプレストレスコンクリートを採用することで、建物全体の長寿命化を図った。高強度コンクリートの採用により、躯体の耐久性を向上させた。

工業化工法の採用による資材の削減

柱、梁などにプレキャスト化を採用、鋼板型枠を採用することにより、合板型枠の使用量の削減を行った。

水の効率的利用

節水型設備機器を採用するとともに、井水を漏水設備に利用し、上水の使用量の削減を行った。また、非常時には井水をトイレ洗浄水として利用できるシステムとした。

周辺環境への配慮

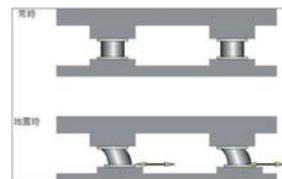
自然豊かな周辺環境との調和を図るため、敷地内の緑地部分には、地域に自生する木などを植栽することにより森の復元を目指した。前面道路の交通環境に影響を及ぼさないよう、敷地乗り入れのための十分な下げ幅を確保した。

造成工事での工夫

造成工事においては、適切な地盤高さの設定、造成計画により掘削土量を最小限とし、無駄な掘削工事、残土運搬を抑え、エネルギーの削減に努めた。

事業継続性への配慮

免震工法を採用により地震時の影響を削減、非常発電機の設置することで最低限の事務所機能を確保、災害時の井水利用などにより、災害時の事業継続性を確保した。



免震構造（イメージ）

設計担当者

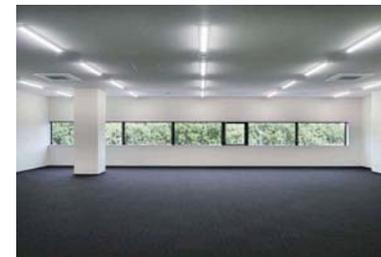
総括：西尾典流/建築：阿比留辰文、見目奈実子、渡邊和弥/構造：野原悟
電気：渡辺英策/機械：萩原寿樹

主要な採用技術（CASBEE準拠）

- Q2. 2. 耐用性・信頼性（免震構造、PCaPC構造、非常用発電機設置、UPS設置）
- Q2. 3. 対応性・更新性（階高のゆとり、空間の形状・自由さ、荷重のゆとり）
- LR1. 1. 建物外皮の熱負荷抑制（断熱性の高い屋根、外壁）
- LR1. 3. 設備システムの高効率化（LED照明）
- LR2. 1. 水資源保護（節水型設備機器、井水利用）
- LR3. 2. 地域環境への配慮（オール電化、交通負荷抑制）



太陽光発電



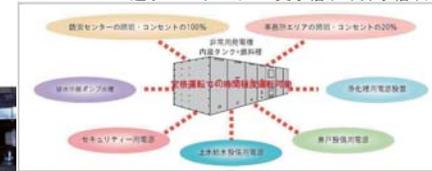
事務室



倉庫内部



PC造ランプウェイ 受水槽(上)井水槽(下)



非常用発電機

建物データ	
所在地	埼玉県日高市
竣工年	2016年
敷地面積	39,000㎡
延床面積	85,758㎡
構造	RC(PCa)造 一部S造
階数	地上5階

省エネルギー性能	
BPI	0.61
BEI (通常の計算法)	0.50
LCCO削減	23%

CASBEE評価	
Aランク	
BEE=1.7	
2014	
第三者認証	

